

# 福祉サービス第三者評価結果の公表ガイドライン

## ① 第三者評価機関情報

評価機関名：有限会社 保健情報サービス
訪問実施期間 平成19年12月8日

## ② 事業者情報

名称：社会福祉法人 聖園の布教姉妹会 米子聖園ベビーホー	種別：乳児院
代表者氏名：澤 峯子	定員（利用人数）： 20名
所在地：鳥取県米子市上後藤4丁目2番36号	TEL 0859-29-5924

## ③ 総 評

### ◇ 特に評価の高い点

昨年に続き第三者の外部評価を自主的に受けられ、自ら一年間のサービスの内容について評価すると共に、客観的な外部評価を基に、より質の向上に向けたサービスの取り組みの意欲が随所に感じられた。昨年の改善課題であった地震等を想定してテレビ、タンス類の固定、死角になりがちな保育室の改修、食器や箸の個別化、歯磨きやゆとりのある入浴など家庭的雰囲気づくりに努めるなど、単なる評価に終わらず結果を真摯に受け止め取り組んでおられた。理念や方針も全職員に周知され「愛されるためにこの子供達は生まれここにきている」というキリスト教の礎のもと職種にこだわらず、人手が足りない時は洗濯係の職員もおんぶするなど相互に協力しあい、慈しんで1人ひとりを養育しておられた。また積極的に社会のニーズを把握し、受け入れや育児支援事業を見直し、新たなプログラムの導入したり、ケース会議を増やし関係機関との連携や家族へのかかわりをより強くする取り組みも行なわれていた。また今年から食育を2、3歳児に実践するなど園長のリーダーシップのもと全職員が現状のサービスに満足することなく常に問題意識を持ちながらいきいきと働いておられた。子育てサークル、ボランティアや実習生の受け入れも積極的に行い、地域との交流を目指し努力されていた。乳幼児も清潔な衣服を身につけ、表情豊かで大切に養育されていることを感じとることができた。

### ◇ 改善を求められる点

研修後は会議や復名書で報告され、研修で得た内容の良い点を取り入れるなど研修が生かされていたが、今後個別の教育、研修計画の評価や見直しをされて行くと、より職員の質の向上があがり、サービス内容の質の向上に繋がると思われます。また個人情報保護に関する施設の姿勢が不十分ですので職員全員で話し合われてみたらいかがでしょうか。また苦情の記録に関して受付者の名前の記入欄を設けるなど書式の見直しも必要と思われます。今後も数少ない乳児院の役割を担い、ますます質の向上を目指し、より良い施設になられますことを期待してやみません。

## ④ 第三者評価結果に対する事業者のコメント

改善すべき点が沢山見つかりましたので、これから職員と話し合い、質の向上を目指して地域に開かれ親しまれる施設にしていきたいと考えております。ご縁があって出逢った子供達の最善の利益を求め、子供達の代弁者となり、又、人生の歩みの中で少しでも「愛されている」ことを感じ、同時に「人を思いやる心」が育っていく様、職員一丸となって取り組んで参りたいと思っております。

## ⑤ 各評価項目に係る第三者評価結果 別紙のとおり

# 福祉サービス第三者評価結果

※すべての評価項目（55項目）について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

## 評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

### Ⅰ-1 理念・基本方針

評価項目	第三者評価結果	留意事項
Ⅰ-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。		
Ⅰ-1-(1)-① 理念が明文化されている。	a	理念は明文化されており、その理念から施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることが出来る。
Ⅰ-1-(1)-② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	a	キリスト愛と児童観を踏まえ基本方針が明文化しており、職員の行動規範となるような内容となっている。
Ⅰ-1-(2) 理念や基本方針が周知されている。		
Ⅰ-1-(2)-① 理念や基本方針が職員に周知されている。	a	理念等については会議や折あるごとに園長が職員に「園の理念はなんですか？」と問いかけ周知をしている。また職員の聞き取りでも周知されていることが確認できた。事務所にも掲示している。
Ⅰ-1-(2)-② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	a	入所時の面接やその後の面会時に施設のパンフレットを渡し説明し家族等に周知されている。

### Ⅰ-2 計画の策定

評価項目	第三者評価結果	留意事項
Ⅰ-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
Ⅰ-2-(1)-① 中・長期計画が策定されている。	a	2, 3才児保育の取り組み、地域のニーズ、家族との関係づくり、建物の改修、整備、職員体制等中長期計画が策定され、また見直しも行なわれていた。
Ⅰ-2-(1)-② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	a	中、長期計画を踏まえた事業計画の内容が具体的に示されていることが確認出来た。
Ⅰ-2-(2) 計画が適切に策定されている。		
Ⅰ-2-(2)-① 計画の策定が組織的に行われている。	a	職員の参加のもとに計画が策定され社会の動向や地域のニーズ等の変化に対応しながら見直しがされている。組織的にされていることが職員の聞き取りでも確認出来た。
Ⅰ-2-(2)-② 計画が職員や利用者等に周知されている。	b	職員には計画を会議や研修において説明し周知されているが、家族には面会に来られた人のみしか周知出来ていない。施設の性格状周知は困難かとも思われるが、郵送等で周知を図るよう努めていただきたい。

### I-3 管理者の責任とリーダーシップ

評価項目	第三者評価結果	留意事項
I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
I-3-(1)-① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	a	園長の役割や責任は文書化すると共に、会議や研修で職員に対して表明されていた。
I-3-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	a	月1回の全国養護施設長研修をはじめ各種の会議、研修に参加し福祉分野に限らず雇用、労働、災害等の遵守すべき法令を正しく理解する為の取り組みが行なわれていた。
I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
I-3-(2)-① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	a	常に現状に満足することなく、福祉サービスの質の向上に意欲を持ち、課題を把握し改善の取りくみを明らかにし、リーダーシップが発揮されていた。
I-3-(2)-② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	a	経営や業務の効率化と改善に向けて、人事、労務、財政等の面から分析が行なわれた。勤務体制の一部を見直し、看護師が日中1名は常勤する体制など具体的に改善されていた。

## 評価対象Ⅱ 組織の運営管理

### Ⅱ-1 経営状況の把握

評価項目	第三者評価結果	留意事項
Ⅱ-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
Ⅱ-1-(1)-① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	a	利用者像、利用者数等についてや地域のニーズ、変化等経営をとりまく環境を把握し事業計画に反映されていた。また、子供の入所退所状況を確認し、一時保護やショートステイ等取り入れている。
Ⅱ-1-(1)-② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	a	改善すべき課題を解決していくために職員の意見を聞いたり、検討するなど組織的に取り組み、業務内容の見直しや、一時保護、ショートステイ等の受け入れが積極的になされていた。
Ⅱ-1-(1)-③ 外部監査が実施されている。	a	昨年の第三者評価の反省をふまえ、今年度から公認会計士の監査がなされていた。監査結果はまだ届いてなかったが経営改善に活用すると話しておられた。

## II-2 人材の確保・養成

評価項目	第三者評価結果	留意事項
II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。		
II-2-(1)-① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	a	家庭に代わって昼夜乳幼児を養育する施設であることを踏まえ「心から慈しみ養育できる」人材を定数以上に確保し、個別保育の充実や、病児が多数の時、また外部の人に馴染みにくい入院児の必要な職員確保が具体的に確立されていた。
II-2-(1)-② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	a	人事考課の目的や効果は理解し実施されていたが、今後組織として能力評価の自己申告等取り組まれることを期待したい。
、		
II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	a	有給休暇の消化率が不十分だった為とりやすくしたり、日常的に行なわれていたサービス残業を改善する等、人材や人員体制に向け園長自ら動きやすい環境を構築しており職員の聞き取りでも確認できた。
II-2-(2)-② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a	職員の健康保持増進、余暇活動の充実、親睦会を随時開催するなど福利厚生事業を積極的にしており職員からも確認できた。
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
II-2-(3)-① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a	施設が目指す福祉サービスを実施する為に基本方針や計画の中に、組織が職員に求める基本的姿勢や意識が明示されている。
II-2-(3)-② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	a	職員1人ひとりに応じた教育、研修を全職員に行い、職員の質の向上つなげる体制がとられていた。また職員が気安く相談できる体制であることも聞き取りで確認出来た。
II-2-(3)-③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	b	研修を終了した職員は会議で報告したり、復命書を作成し回覧したりしていることは、書面等でも確認できた。しかし研修成果の評価はしておらず今後の課題とした。
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。		
II-2-(4)-① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	a	実習生受け入れの意義や方針が全職員に理解されており、マニュアルの作成もされており、担当者を決めて指導している。尚、学校等の関係機関とも事前会議がされ実習における事項が明確になされていた。
II-2-(4)-② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	a	中学校の職場体験も積極的に受け入れ、県外の学校からの実習生も受けて育成するなど積極的に実習生を受け入れると共に、実習内容を計画的に学べるよう職員配置やプログラムが整備されていた。

## II-3 安全管理

評価項目	第三者評価結果	
II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。		
II-3-(1)-① 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a	救命処置法、避難訓練の実施、夜間のガス元栓、戸締りの巡回を始め昨年の外部評価で改善を求める事項としてあがっていた地震時の安全確保のための家具の固定をする等利用者の安全確保のための体制が整備されていた。
II-3-(1)-② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a	個人のマニュアルを作成したり、夜勤の職員は戸締り等の確認をしてノートに記入している。連絡ノートで全員が把握するようにしている。また外出時の緊急にそなえ携帯電話の持参もされていた。

## II-4 地域との交流と連携

評価項目	第三者評価結果	留意事項
II-4-(1) 地域との連携が適切に確保されている。		
II-4-(1)-① 利用者との地域とのかかわりを大切にしている。	a	関係機関、団体との連携に基づき、具体的な地域の福祉ニーズの把握に努めておられた。また、普段から近所の方に挨拶したり、天使園祭りの時に参加してもらっている。ふれあいの里にPRのパンフレットをおいている。
II-4-(1)-② 事業所が有する機能を地域に還元している。	a	施設のスペースを開放し、子育て事業の子育てサークルを毎月開催し、沢山の地域の人に活用されており父親の参加もある。今年からはプライベートに考慮しながら、ホームの入園者も参加している。
II-4-(1)-③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	ボランティア受け入れのマニュアルも作成されており基本姿勢が明文化されていた。
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
II-4-(2)-① 必要な社会資源を明確にしている。	a	児童相談所、保険所、民生委員、病院、学校、ボランティア団体、他の施設等必要な社会資源を明確にし、職員間での情報の共有が図られていた。
II-4-(2)-② 関係機関等との連携が適切に行われている。	a	児童相談所とのケース検討会議を今年から月に2回に増やしたり、会議以外に話し合いの場を設け、双方が意見を言いやすくする等関係機関との連携がより改善されていた。
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。		
II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズを把握している。	a	関係機関、団体との連携に基づき、具体的な地域の福祉ニーズの把握に努めておられた。
II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	a	把握したニーズに基づき一時保護、ショートステイ、子育てサークル等事業や活動が行なわれていた。

## 評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

評価項目	第三者評価結果	留意事項
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解を持つための取り組みを行っている。	a	今年は従来に取り組みに加え人権の研修を機会に、なごなく愛称で呼んでたことへの気付きや、乳児の人権の再認識がされ、さらなる利用者を尊重したサービス提供に関する基本的態度が共有されていた。その為にチームごとの保育会議を月1回行っている。
Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	a	写真の掲載、面会者同志が顔を合わさないよう部屋の配慮、ボード版に書かれた内容が外来者の目に触れないようカーテンの作成、職務規定や実習生、ボランティアのマニュアルにも保護に関することが文書化されている。
Ⅲ-1-(2) 利用者満足の向上に努めている。		
Ⅲ-1-(2)-① 利用者満足の向上を意図した仕組みを整備している。	a	家庭支援相談員や園長を中心に家族の個別相談、面接、電話、家庭訪問を通じ、家族の意向を把握し満足の向上を意図した仕組みが整備されている。面会時の部屋の設定をしたり、利用者の好みの食事を取り入れたりしている。
Ⅲ-1-(2)-② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	a	家族の意向にそった外出、外泊支援、また誕生日会や退所時に好きな食事の提供をする等満足向上に向けた取り組みがなされている。
Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
Ⅲ-1-(3)-① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a	家族が意見や相談を述べたいときに相談方法や相談相手を選択できる環境が整備され、そのことを家族にも伝えており意見箱の設置されている。
Ⅲ-1-(3)-② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	a	苦情解決の仕組みが確立され機能されていることが書面でも確認出来た。今後苦情受付者や結果の報告者、日時の記録が出来るよう書面の見直しを工夫されることが望まれる。
Ⅲ-1-(3)-③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	a	外出、外泊の際に困ったことが記入できる用紙や、随時電話、面会での相談、人権ノートを作成し家族の意見が書き込めるようにするなど、関係機関と連携しながら迅速に対応されていた。

### Ⅲ-2 サービスの質の確保

評価項目	第三者評価結果	留意事項
Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。		
Ⅲ-2-(1)-① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	a	サービス内容について自己評価、第三者評価等を自主的に継続して受け、評価を行なう体制が整備されている。
Ⅲ-2-(1)-② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	a	月1回の職員会や、年2回児童相談所とケース検討会をしている。職員間で評価の結果に基づき課題を明確にして共有が図られている。
Ⅲ-2-(1)-③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。	a	昨年度の課題であった危機管理の徹底、死角部分が多かった部屋の改修、入浴体制の見直し、食器の個別化やはみぎの導入等、職員参画のもとに改善されていた。また家族にも評価結果が自由に閲覧できるようになされていた。
Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		
Ⅲ-2-(2)-① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	a	毎月の職員会議、月2回児相との検討会等で話し合いをおこない、個別の留意点や実施方法を文書化しサービスの提供がなされていた。
Ⅲ-2-(2)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	発達の目覚ましい乳幼児期を考慮し毎月や、変化が見られた時は随時に見直しがされており、書面でも確認できた。
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		
Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	a	サービスの実施記録はバイタルチェックを始め健康、食事、日々の記録が詳しく個別にされており、この施設で愛されて育ったことの証として成長記録は写真と共に大切に保存されていた。
Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a	利用者のきろくの保管、保存、廃棄に関する規程も定められており記録の保管場所も第三者が入らない部屋に管理されていることが確認できた。今後個人情報保護と情報開示の観点から管理体制が整備されることがのぞまれます。
Ⅲ-2-(3)-③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a	関係機関からの情報を始め家庭訪問等で知り得た利用者の状況を、引き継ぎや申し送りノートなどでプライバシー保護に考慮しながら職員間で共有化されていた。

### Ⅲ-3 サービスの開始・継続

評価項目	第三者評価結果	留意事項
Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。		
Ⅲ-3-(1)-① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	a	サービスの内容が説明されたパンフレットを公共施設への配置するなど、見学、問合せや利用希望者に対して情報の提供がなされている。
Ⅲ-3-(1)-② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a	入所時、問診時に提供するサービスの内容を細かく説明し同意が得られていた。緊急一時入所も受け入れる体制がある。
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		
Ⅲ-3-(2)-① 事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a	措置や関係機関と協議のうえ適切な退所時期、退所先、退所後の生活等について継続性に配慮した対応が行われている。

### Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

評価項目	第三者評価結果	留意事項
Ⅲ-4-(1) 利用者のアセスメントが行われている。		
Ⅲ-4-(1)-① 定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	a	利用者等の身体、生活状況等は定められた様式により措置機関が行い、情報が施設に提供されている。
Ⅲ-4-(1)-② 利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	a	家庭環境等に考慮しながら、個別に課題分析を行い検討された具体的な目標やニーズが書面でも確認出来た。
Ⅲ-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。		
Ⅲ-4-(2)-① サービス実施計画を適切に策定している。	a	乳幼児期は人格形成の出来る大切な時期であることを鑑み、個人差の著しい発達程度に応じ、食生活も含めたサービスの実施計画が適切に策定されていた。
Ⅲ-4-(2)-② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a	家族の意向と照し合せながらサービスの実施計画、評価、見直しが組織的、定期的に関係機関を交えなされていることが書面や聞き取りで確認出来た。



# 福祉サービス第三者評価結果 (付加基準－乳児院版－)

※すべての評価項目（19項目）について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

## A-1 日常生活支援サービス

評価項目	第三者評価結果	コメント
A-1-(1) 援助の基本		
A-1-(1)-① 乳幼児と愛着関係を築くように努めている。	a	入所から退所まで養育担当制が行なわれている。語りかけやだっこ、おんぶ等の身体のふれあいを通して心の安定を図り心地良い状態を共有できるように努められている。
A-1-(2) 健康管理		
A-1-(2)-① 一人ひとりの乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	a	日々の健康状態の変化が一目で把握できるよう記入されており、異常時や定期健診は近くの主治医と連携がとれており速やかに対応できる体制がとられている。また離乳食を始めた頃は発疹やアレルギー症状等特に注意深く観察が行なわれている。
A-1-(2)-② 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	a	昨年までは病、虚弱児は日中は2階の病室で保育が行なわれていたが、午睡は他の乳幼児と一緒に対応が不十分であった。しかし今年から昨年の評価の反省を踏まえ午睡時も病室で対応する等健康管理が一層適切に行なわれていた。
A-1-(2)-③ 乳幼児突然死症候群(SIDS)や窒息の予防策を講じている。	a	乳幼児突然死症候群や窒息について知識を習得し、ベビーセンスの使用、睡眠時の小まめな巡回、ベッド内に余分な布団を置かない等予防策が講じられていた。
A-1-(3) 睡眠環境等		
A-1-(3)-① 乳幼児が十分な睡眠をとれるように工夫している。	a	安心して心地よい眠りにつけるように子守唄や軽くたたいておられた。また寝付けなない時にはおんぶをする等工夫しておられた。
A-1-(3)-② 快適な睡眠環境を整えるように工夫している。	a	部屋の照明、遮光カーテン、温度、湿度、布団の硬さ等、快適な睡眠環境を整える工夫がみられた。
A-1-(3)-③ 気候や場面、発達に応じた適切な衣類管理を行っている。	a	衣類係と担当者が中心となり、気候や場面、発達に応じた適切な衣類が個別に収納されていた。また通気性、吸湿性に富んだ清潔な衣類であった。なお乳幼児は衣類を汚す場面が多いことも考慮し、着替えも十分に準備されていた。
A-1-(3)-④ 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a	今年から昨年の評価の反省を踏まえ未満児は1階、2～3才児は2階と浴室を分けたため、時間にしばられることなく、ゆったりと楽しく入浴、沐浴ができるようになっていた。バスタオル、タオルも共有されておらず玩具も準備されていた。

A-1-(4) 食事		
A-1-(4)-① 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	a	授乳は抱きながら目を合わせ、優しく言葉かけをしながらされていた。発達に応じた時間の間隔、量、授乳後の排気は職員間で共通理解されていた。職員の勤務上、手薄の時にまくら飲みになることはあるが、その他は適切に授乳が行なわれていた。
A-1-(4)-② 離乳食を進める際には十分な配慮をしている。	a	個々の状態に合わせて離乳を開始しさまざまな味に慣れさせたり、噛む力を養う為に食品の種類や調理方法の工夫をする等十分な配慮がされていた。
A-1-(4)-③ 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	a	発達段階に応じ食事のグループ分け、今年から食器、箸を個別にしより家庭的にしたり、食後のはみがき、週1回2、3才児の食育の実践を通じ興味や自主性を育てる等、食事がおいしく楽しく食べられるよう独自の取り組みがされていた。
A-1-(4)-④ 栄養管理に十分な注意が払われている。	a	栄養士によりバランスのよい献立が準備されており、乳幼児の体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事の提供、残渣調査を行なうなど栄養摂取量の把握に努め、献立に反映されていた。
A-1-(5) 発達段階に応じた支援		
A-1-(5)-① 幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	a	おむつ交換の時、声をかけながらするなどして心地良いものであることを伝えるよう心がけたり、発達段階に応じて便器に座らせるなど排泄への意識づけや、排泄時、スクリーンやカーテンを利用するなどプライバシーの配慮もされていた。
A-1-(5)-② 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	a	散歩や外出を数多く取り入れ外界への興味や、模倣遊びや職員、友達との遊びを通じ情緒や社会性の育成、玩具は個別、共有のものが準備されており、抗菌の砂の使用や玩具の消毒など衛生面にも配慮されていた。
A-1-(6) 家族とのつながり		
A-1-(6)-① 児童相談所等と連携し、乳幼児と家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりができています。	a	家族との関係調整について常に児童相談所と協議したり、乳幼児の日常生活の様子について家族に伝え、養育計画も確認しあう機会がもてるなど、家庭支援相談員や園長を中心に家族から相談におうじる体制づくりが出来ている。
A-1-(6)-② 保護者と子の愛着関係、養育意欲の形成を援助するように努力している。	a	保護者の面会が定期的になるように種々の方法で呼びかけ、子への愛着、養育意欲の形成を援助するように努めておられる。また外出、外泊後の乳幼児の様子を観察し、家族による不適切な関わりの発見に努めておられた。
A-1-(6)-③ 乳幼児と保護者に必要な心理的支援を行っている。	a	専門職はいないが、心理的ケアが必要な乳幼児や家族に対して援助が出来る体制があり、家族からも信頼されていることが確認できた。基本的な育児スキルを身につけてもらう取り組みもなされていた。

## A-2 利用者の尊重

評価項目	第三者評価結果	コメント
A-2-(1) 乳幼児の権利擁護		
A-2-(1)-① 体罰が行われないよう徹底されている。	a	職員全体で徹底されている。
A-2-(1)-② 乳幼児に対する暴力、言葉による脅かし等の不適切な関わりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a	職員全体で取り組んでいる。